

リモートワークに関する調査

—地方圏の大学生の約8割がリモートワーク正社員採用に関心、コロナ禍前より約20%ポイント増加—

大正大学地域構想研究所は、地方圏に住む大学生を対象に、「リモートワーク正社員」として首都圏の企業に採用されることについてどのように考えるかを把握するため、インターネット調査を実施しました。その結果、地方圏に住む大学生の約8割が「リモートワーク正社員」として首都圏企業に採用されることに関心があることがわかりました。コロナ禍前の2018年に実施した同様の調査の結果に比べ約20%ポイント増加しています。

大正大学地域構想研究所では地域と連携し社会に貢献するため様々な取組を実施しております。今後、地方創生や働き方改革の観点も勘案し、本調査で確認できたリモートワークに対する関心やリモートワークが地方創生に持つ可能性等を踏まえた取組や研究をさらに進めて参りたいと考えています。

【調査結果概要】

- 地方圏^(注1)に住む大学生の「リモートワーク」^(注2)という働き方についての印象は、「今後様々な分野で広まる」が59.6%で最多、「一部の限られた仕事でのみ可能」(19.1%)、「IT分野など限られた分野で広まる」(15.3%)が続いた。コロナ禍前と比べ、「わからない」が約25%ポイント減り、「今後様々な分野で広まる」が約30%ポイント増加した。

^(注1) 地方圏は3大都市圏（首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）、大阪圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県）、名古屋圏（愛知県、岐阜県、三重県））、政令都市がある県以外の県とした。

^(注2) 本調査における「リモートワーク」は、在籍する会社のオフィスにはほとんど出勤せず（例えば1、2週間に1回だけ出勤する）、基本的には自宅や自宅近くのサテライトオフィス（企業または団体の本拠から離れたところに設置されたオフィス）など、会社から離れた場所で業務を遂行する勤務形態を指す。また、「リモートワーク正社員」は、もっぱら「リモートワーク」で働く正社員を指すこととする。

- 首都圏企業に「リモートワーク正社員」として採用されることについて、「少し関心がある」が49.1%で最多で、「非常に関心がある」(28.4%)、「関心がない」(13.5%)、「わからない」(8.9%)が続いた。「非常に関心がある」と「少し関心がある」を加えると約8割となり、コロナ禍前と比べ、約20%ポイント増えた。
- 「リモートワーク正社員」として採用されることに関心がある者がリモートワークに関心があるとする理由は、「現居住地に住み続けたいと思うから」(35.4%)が最も多く、「出身地に住みたいと思うから」(33.1%)、「リモートワークにチャレンジしてみたいから」(29.8%)との回答が続いた。

- 「リモートワーク正社員」に関心がある者が、リモートワークをする場合、必要だと思う出勤頻度は、「1週間に1回」(48.3%)が最多で、次いで「1ヶ月に1回」(24.6%)、「2週間に1回」(20.3%)が多かった。
- 「リモートワーク正社員」に関心がある者が、リモートワークをする場合に必要と考える条件は、「オンライン会議などができるようなIT環境の整備」が73.1%で最多となり、次いで「会社と疎遠にならないよう社内の様々な情報の提供」(57.9%)、「社内の人たちと知り合えるしくみ」(50.6%)、「サテライトオフィスの整備」(44.3%)が多かった。
- 「リモートワーク正社員」に関心がある者がリモートワークをする場合に心配なことは、「仕事で困ったことがあったとき相談できないのではないか」が68.8%で最多となり、次いで「職場で仲間を作ることができないのではないか」(56.5%)、「研修や教育訓練を受けられないのではないか」(41.0%)が多かった。
- 「頻繁に行っていて慣れている」インターネット活用等の項目の数が多ければ多いほど、「リモートワーク正社員」としての採用に「非常に興味がある」者の割合が多かった。

【調査概要】

- ・調査目的: 地方圏に住む大学生が「リモートワーク正社員」として首都圏の企業に採用されることについてどのように考えるかを把握する。
- ・調査対象: 地方圏に住む大学生(大学院生を含む)。なお、地方圏は3大都市圏(首都圏、大阪圏、名古屋圏)、政令都市がある県以外とした。
- ・回収サンプル数: 806人(男性243人、女性563人)
- ・調査時期: 2022年10月
- ・調査方法: インターネット調査(NTTコムオンライン・マーケティング・ソリューション(株)委託)

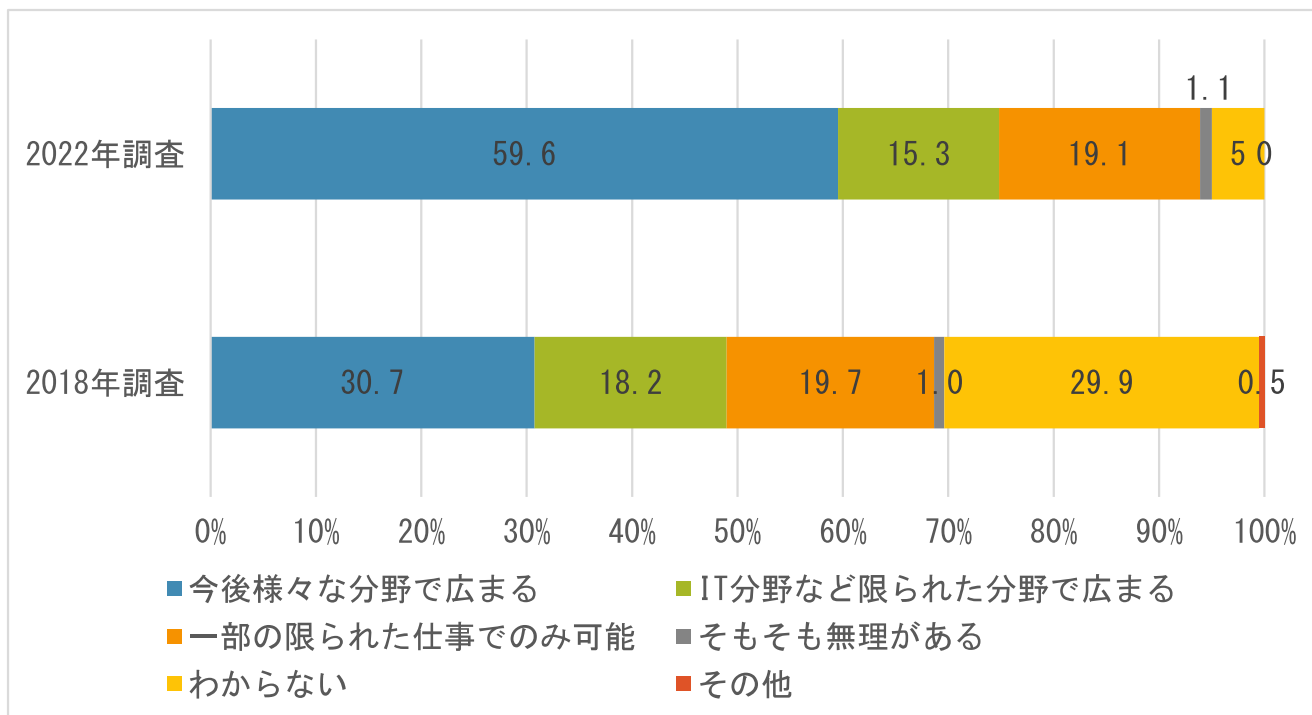
【本調査についての照会先】

大正大学地域構想研究所プロジェクトつなぐ事務局
塚崎裕子・山本恭久
(電話) 03(5944)5482
(ファックス)03(5934)3055

【調査結果】

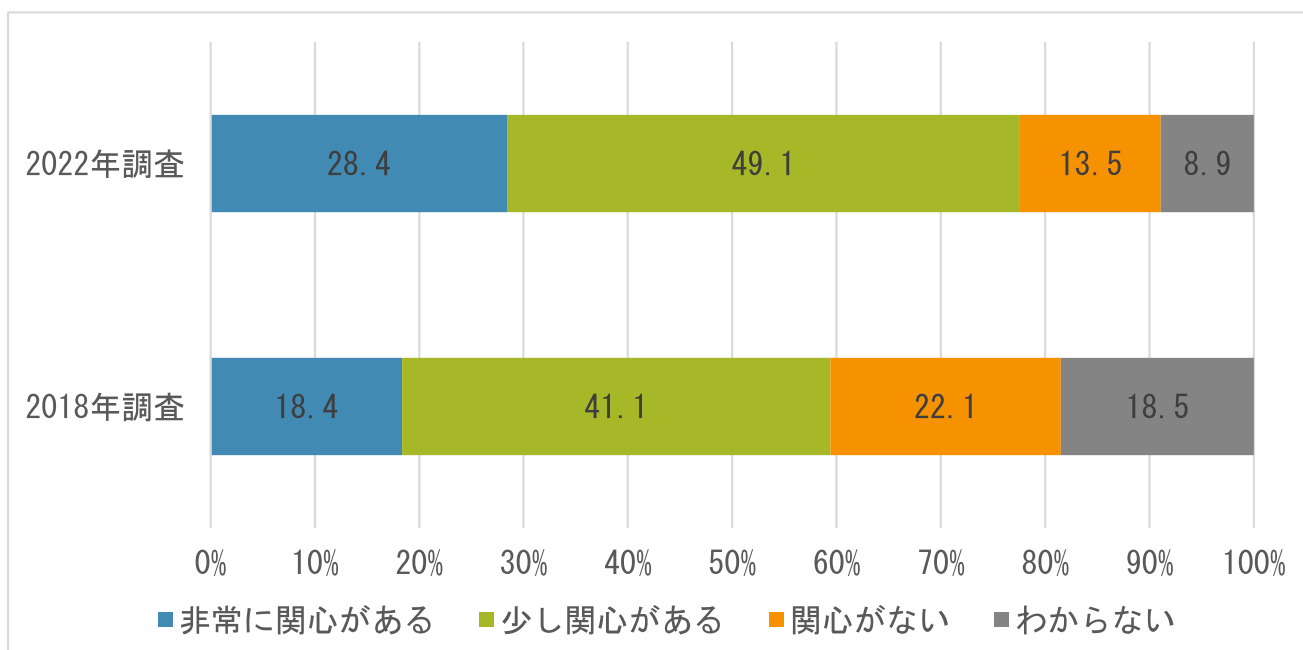
1. リモートワークという働き方について

- 地方圏に住む大学生に「あなたは『リモートワーク』という働き方についてどのような印象をお持ちですか」と聞いたところ、「今後様々な分野で広まる」が59.6%で最多、次いで「一部の限られた仕事でのみ可能」(19.1%)、「IT分野など限られた分野で広まる」(15.3%)が続いた。コロナ禍前と比べ、「わからない」が約25%ポイント減り、「今後様々な分野で広まる」が約30%ポイント増加した。

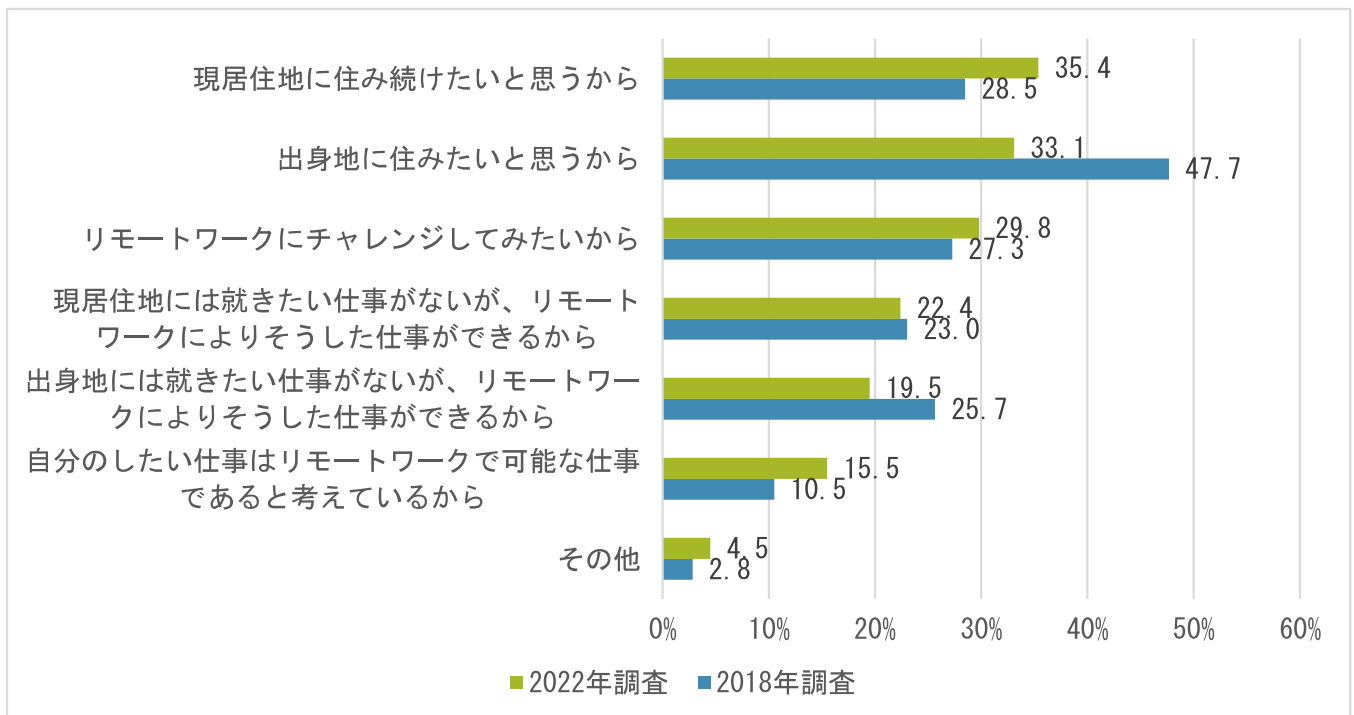


2. 「リモートワーク正社員」としての採用への関心

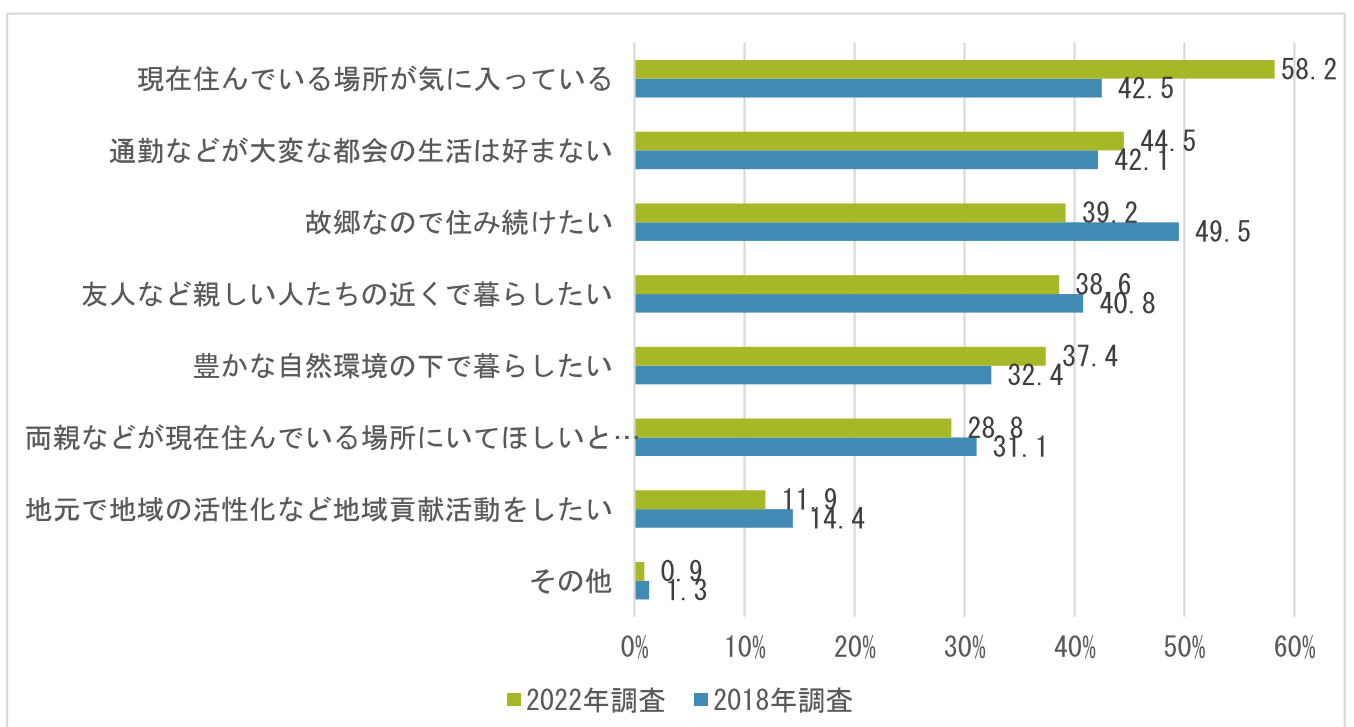
- 地方圏に住む大学生に、首都圏企業が「リモートワーク正社員」としての採用をするとした場合、「あなたは『リモートワーク正社員』としての採用に関心がおありですか」と聞いたところ、「少し関心がある」が49.1%で最多で、「非常に関心がある」(28.4%)、「関心がない」(13.5%)、「わからない」(8.9%)が続いた。「非常に関心がある」と「少し関心がある」を加えると約8割となり、コロナ禍前と比べ、約20%ポイント増え、「関心がない」及び「わからない」が約10%ポイントずつ減った。



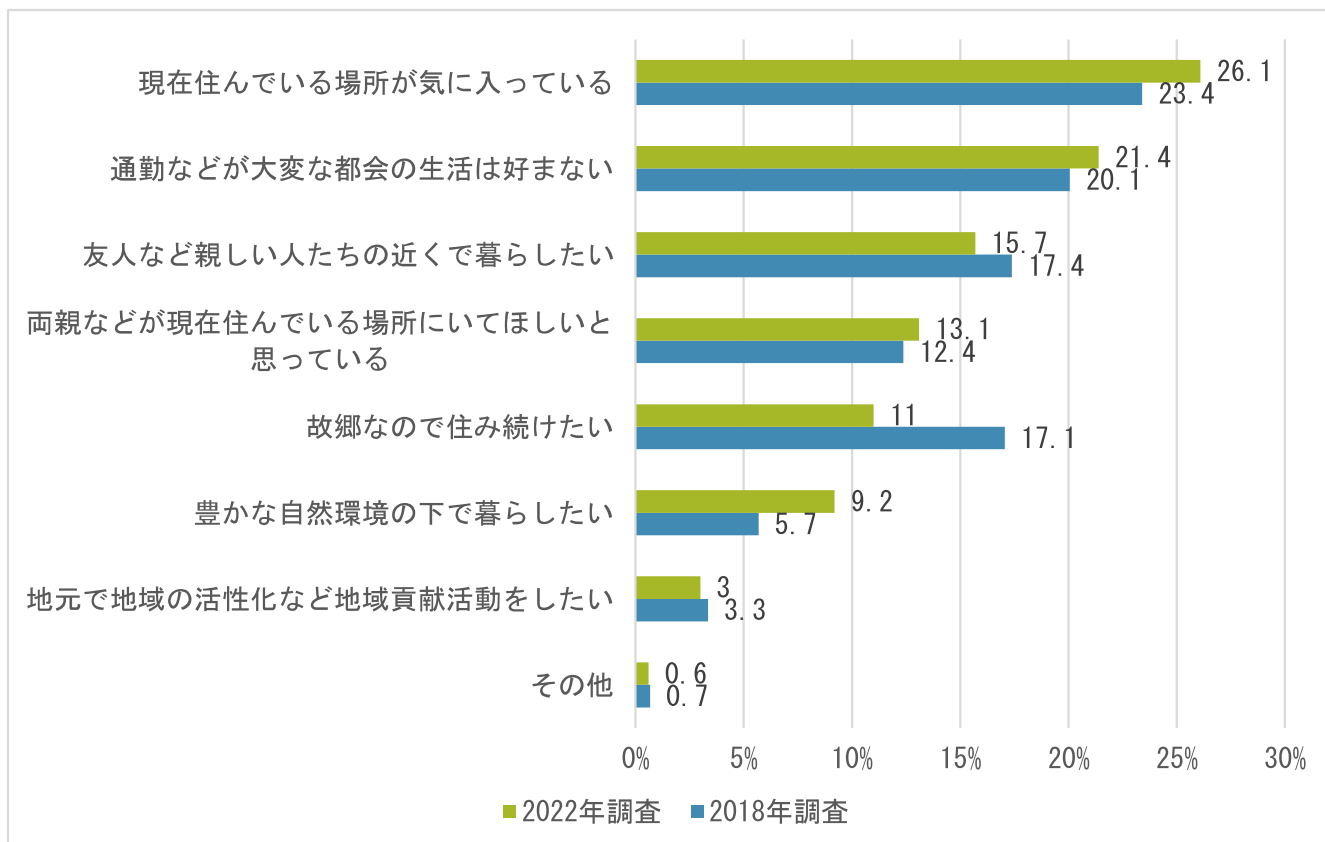
- 「リモートワーク正社員」としての採用に「非常に興味がある」か「少し興味がある」と回答した者(以下「『リモートワーク正社員』としての採用に関心がある者」とする)に、「リモートワークに関心があるとする理由は何ですか」と聞いたところ(複数回答)、「現居住地に住み続けたいと思うから」(35.4%)が最も多く、「出身地に住みたいと思うから」(33.1%)、「リモートワークにチャレンジしてみたいから」(29.8%)との回答が続いた。



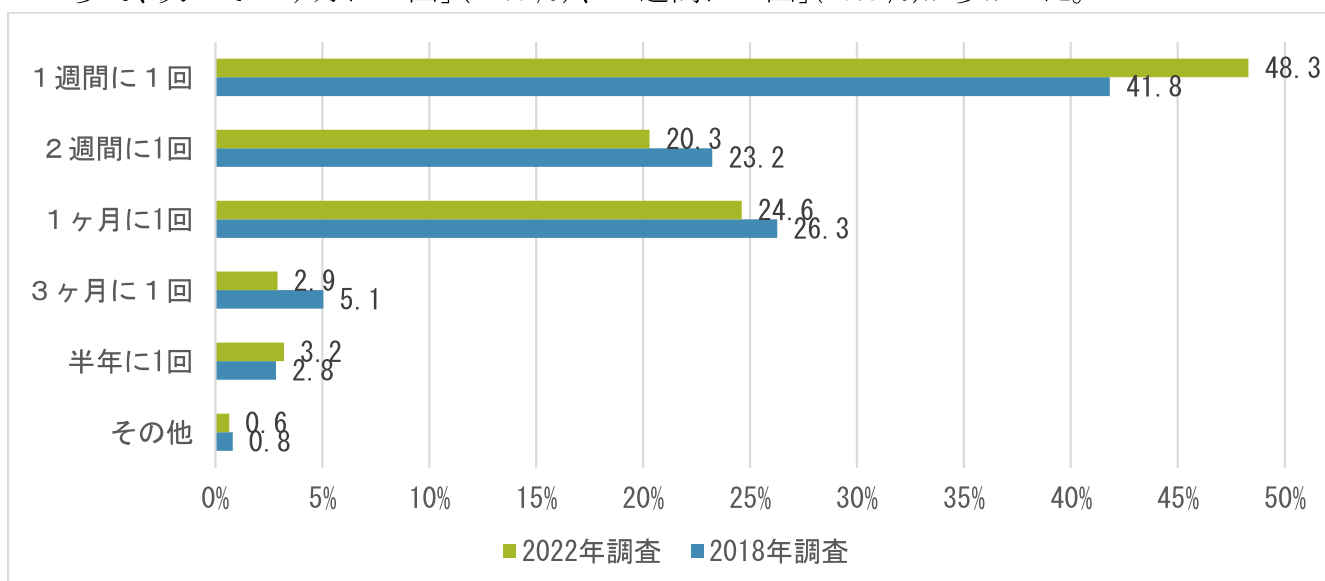
- 現居住地或いは出身地に住みたいと思っている者に、「住みたいと思っている理由は何ですか」と聞いたところ(複数回答)、「現在住んでいるところが気に入っている」(58.2%)が半数を超えて最も多く、「通勤などが大変な都会の生活は好まない」(44.5%)、「故郷なので住み続けたい」(39.2%)、「友人など親しい人たちの近くで暮らしたい」(38.6%)、「豊かな自然環境の下で暮らしたい」(37.4%)が続いた。



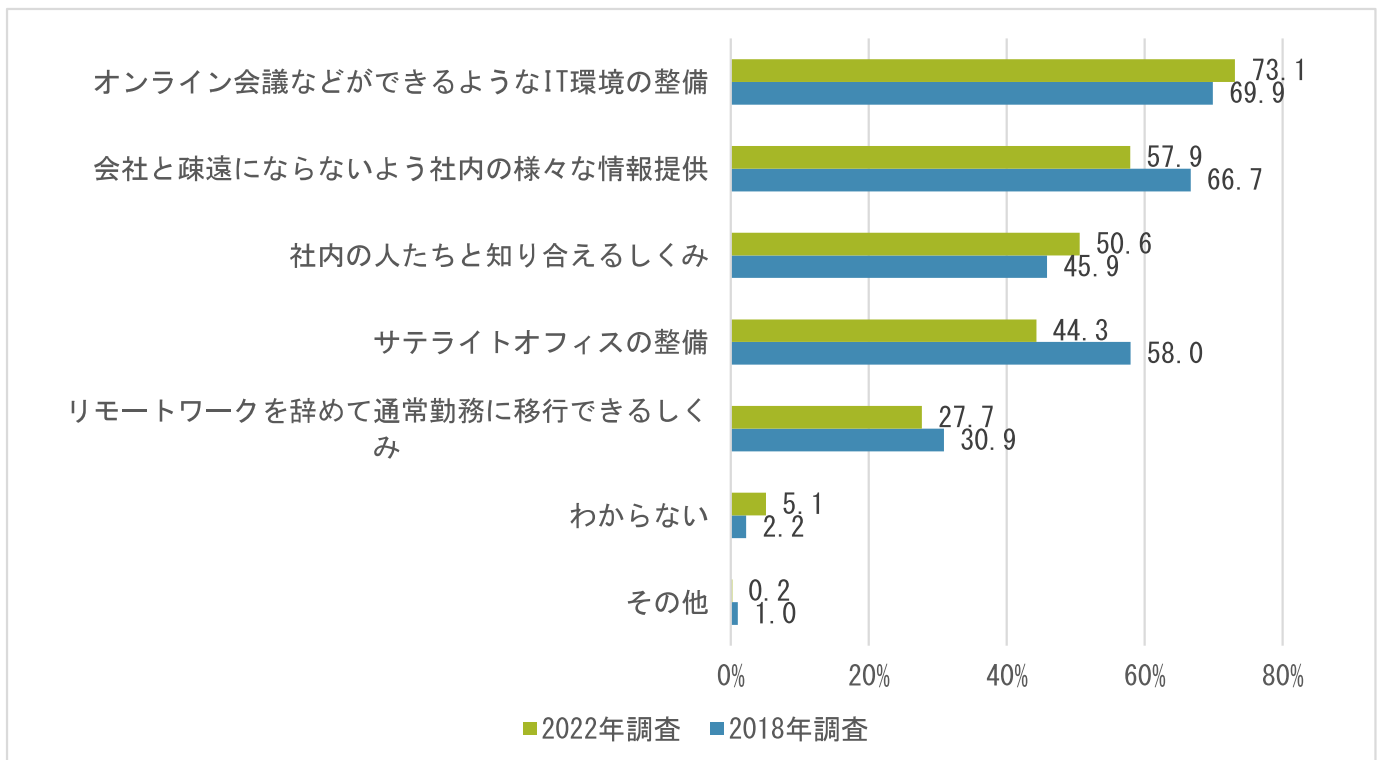
- 現居住地或いは出身地に住みたいと思っている理由の中で、主な理由となっている順に順番をつけてもらい、1位のみをみたところ、「現在住んでいるところが気に入っている」(26.1%)が最も多く、次いで「通勤などが大変な都会の生活は好まない」(21.4%)、「友人など親しい人たちの近くで暮らしたい」(15.7%)、「両親などが現在住んでいる場所にいてほしいと思っている」(13.1%)が多かった。



- 「リモートワーク正社員」としての採用に関心がある者に、「リモートワークをする場合、どのくらいの頻度で定期的に出社する必要がありますか」と聞いたところ、「1週間に1回」(48.3%)が最多で、次いで「1ヶ月に1回」(24.6%)、「2週間に1回」(20.3%)が多かった。

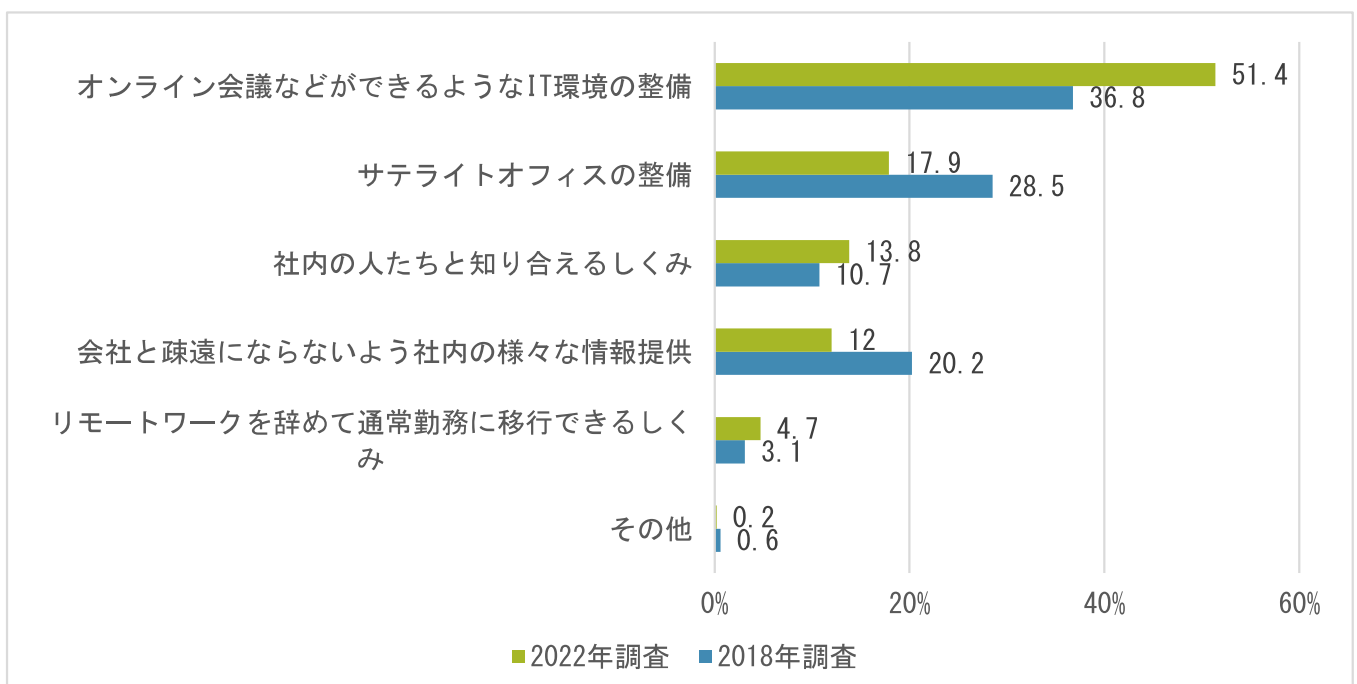


- 「リモートワーク正社員」としての採用に関心がある者に、「リモートワークをする場合、どのような条件が必要と考えますか」と聞いたところ(複数回答)、「オンライン会議^(注)などができるような IT 環境の整備」が 73.1%で最多となり、次いで「会社と疎遠にならないよう社内の様々な情報の提供」(57.9%)、「社内の人たちと知り合えるしくみ」(50.6%)、「サテライトオフィスの整備」(44.3%)が多かった。

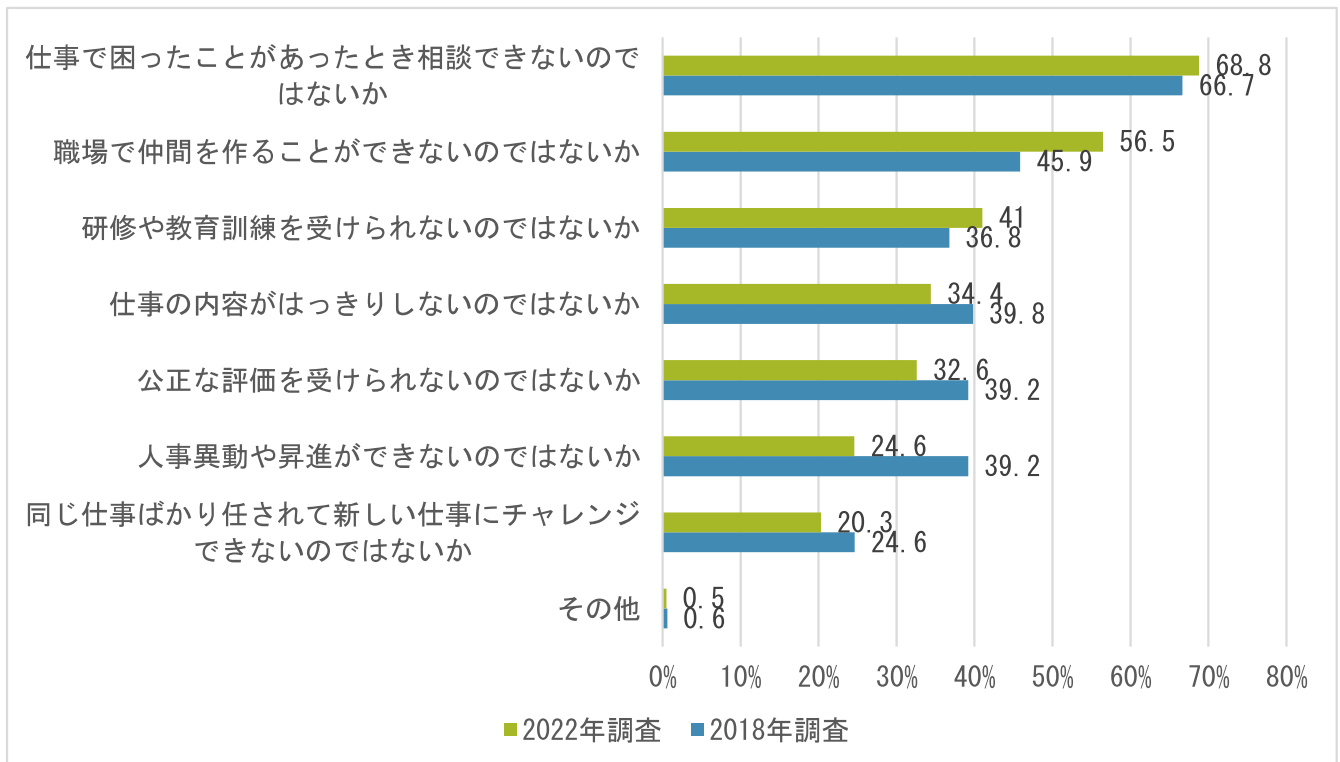


(注)2018年の調査の設問では、「オンライン会議」ではなく、「テレビ会議」という言葉を用いている。

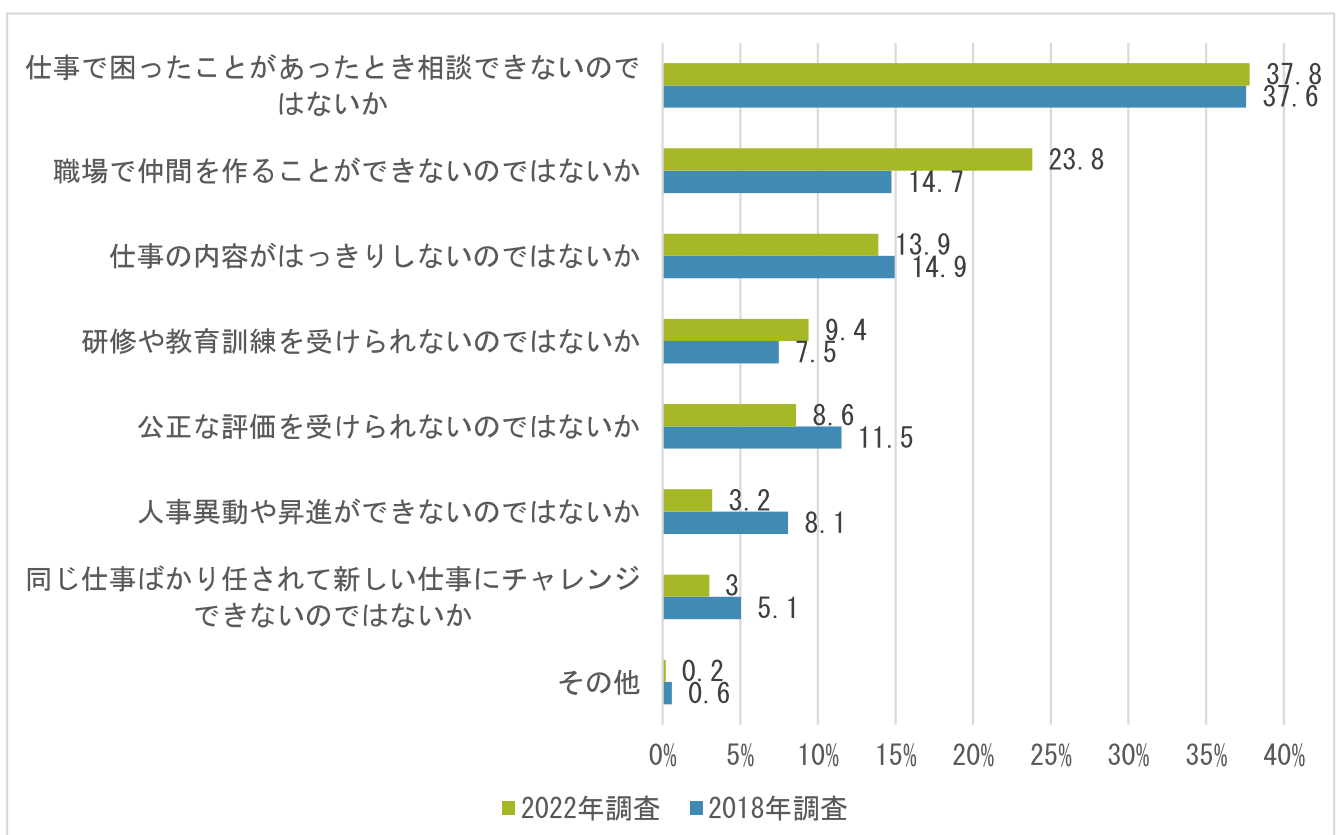
- リモートワークをする場合に必要な条件として重視する順に順番をつけてもらい、1位のみをみたところ、「オンライン会議などができるような IT 環境の整備」(51.4%)が半数を超え、最も多く、「サテライトオフィスの整備」(17.9%)、「社内の人たちと知り合えるしくみ」(13.8%)、「会社と疎遠にならないよう社内の様々な情報の提供」(12.0%)が続いた。



- 「リモートワーク正社員」としての採用に関心がある者に「リモートワークをする場合、どのようなことが心配ですか」と聞いたところ(複数回答)、「仕事で困ったことがあったとき相談できないのではないか」が 68.8%で最多となり、次いで「職場で仲間を作ることができないのではないか」(56.5%)、「研修や教育訓練を受けられないのではないか」(41.0%)が多かった。

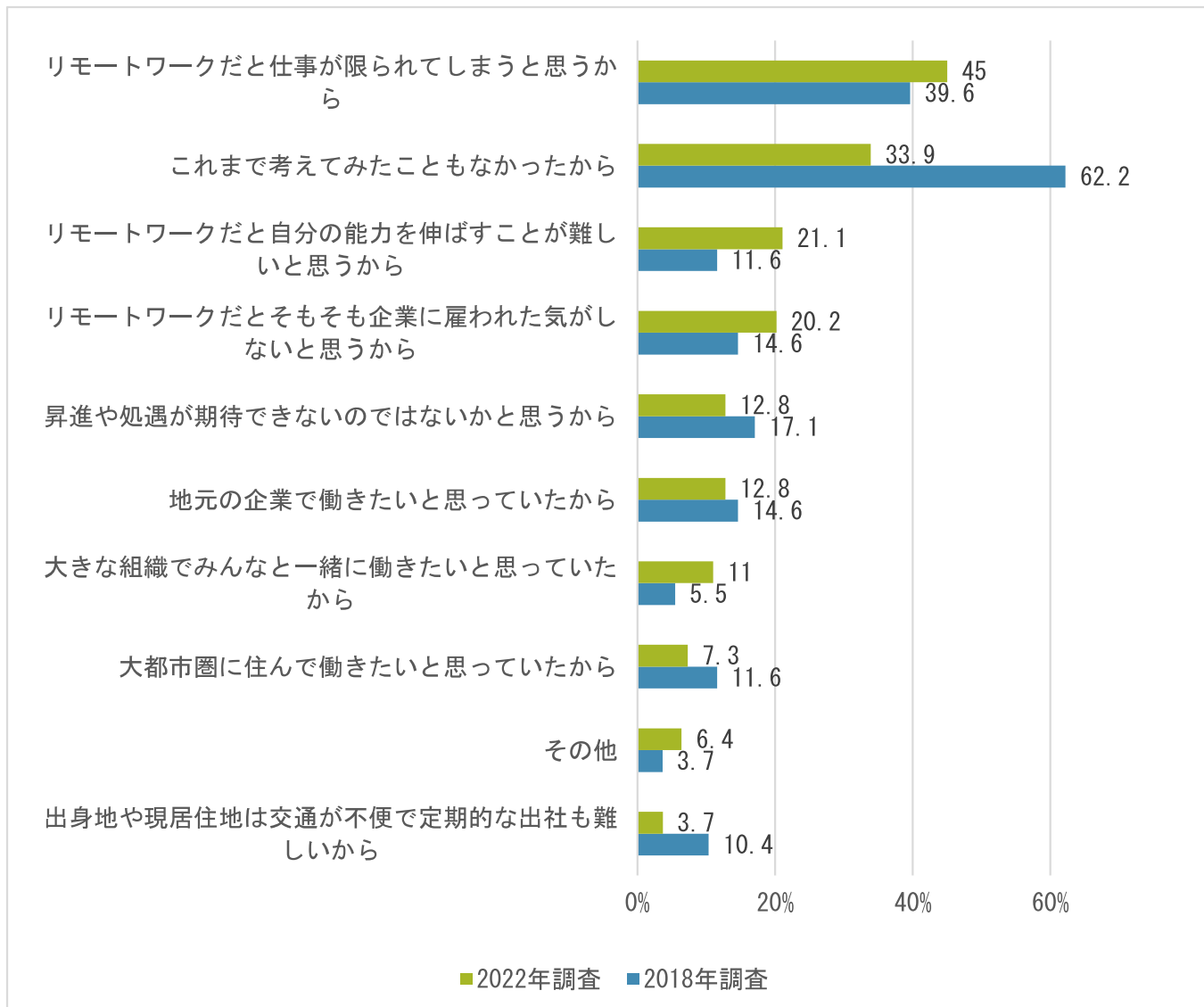


- リモートワークをする場合に心配なことのうち、心配だと思う順に順番をつけてもらい、1位のみをみたところ、「仕事で困ったことがあったとき相談できないのではないか」(37.8%)が最も多く、次いで「職場で仲間を作ることができないのではないか」(23.8%)、「仕事の内容がはっきりしないのではないか」(13.9%)が多かった。

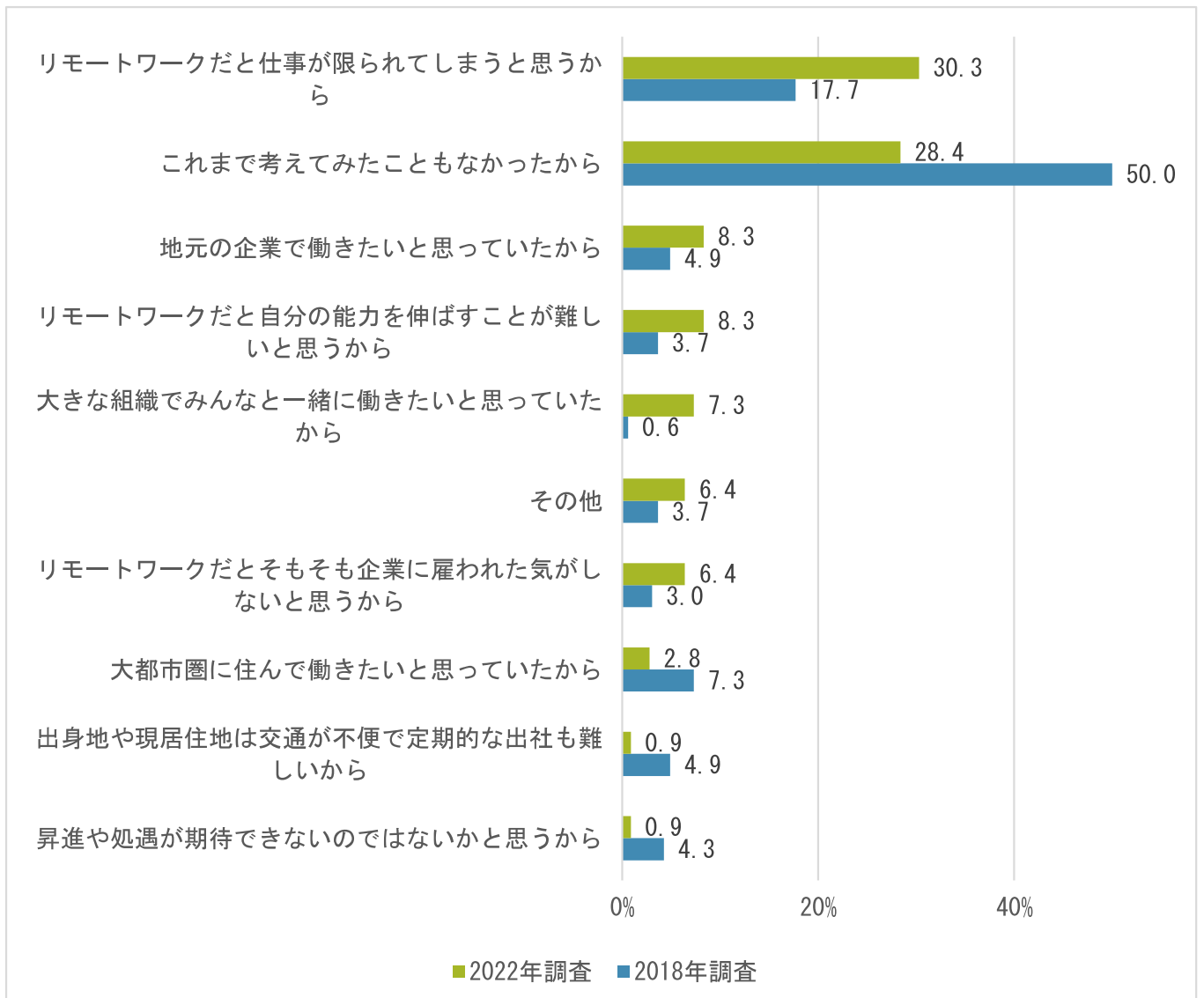


3. 「リモートワーク正社員」に関心がない理由

- 地方圏に住む大学生のうち、「リモートワーク正社員」としての採用に「関心がない」と回答した者に「関心がないとする理由は何ですか」と聞いたところ(複数回答)、「リモートワークだと仕事が限られてしまうと思うから」(45.0%)が最多で、次いで「これまで考えてみたこともなかったから」が33.9%と多かった。コロナ禍前と比べ、「これまで考えてみたことがなかったから」が約30%ポイント減少した。

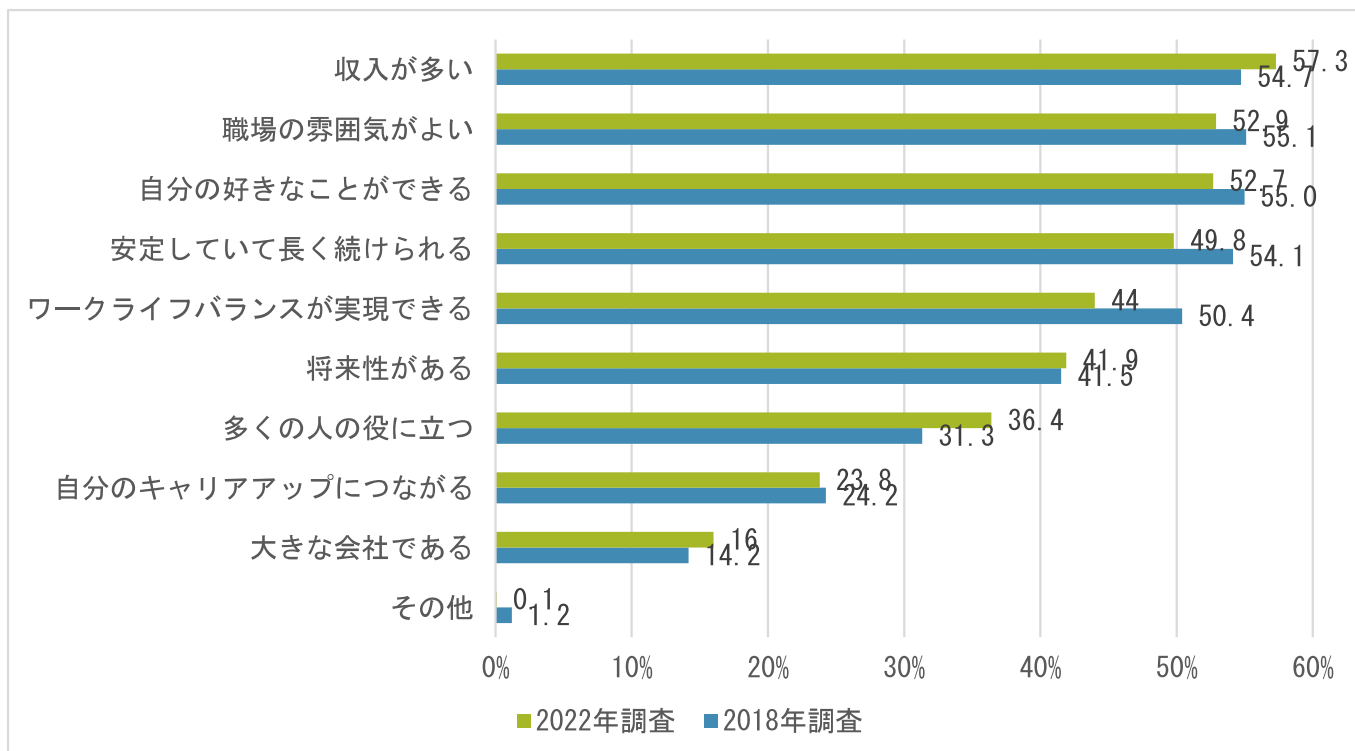


- 「リモートワーク正社員」としての採用に関心がないとする理由のうち、主な理由となっている順に順番をつけてもらい、1位のみをみたところ、「リモートワークだと仕事が限られてしまうと思うから」が30.3%と最も多く、次いで「これまで考えてみたこともなかったから」が28.4%が多かった。コロナ禍前と比べると、「これまで考えてみたこともなかったから」が約20%ポイント減少し、「リモートワークだと仕事が限られてしまうと思うから」が約10%ポイント増加した。

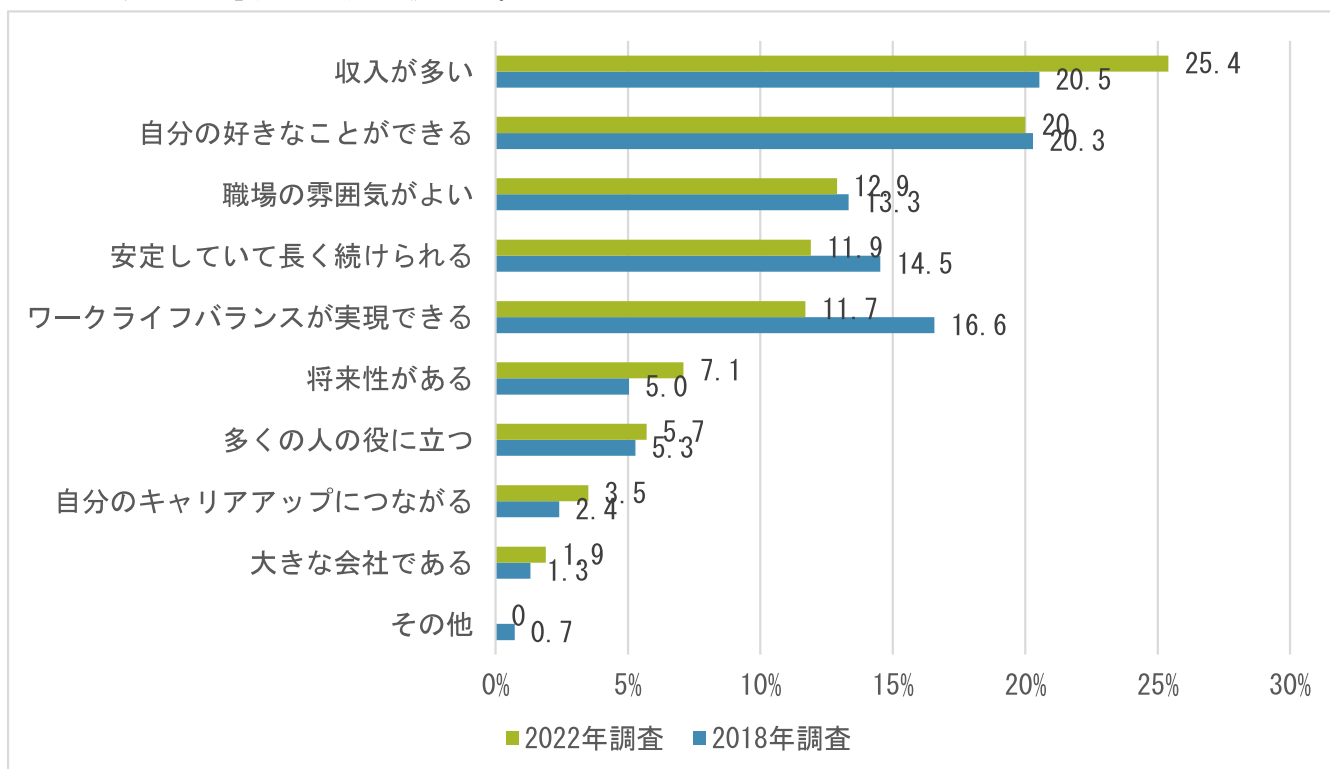


4. 仕事を選ぶ際重視することと「リモートワーク正社員」としての採用への関心

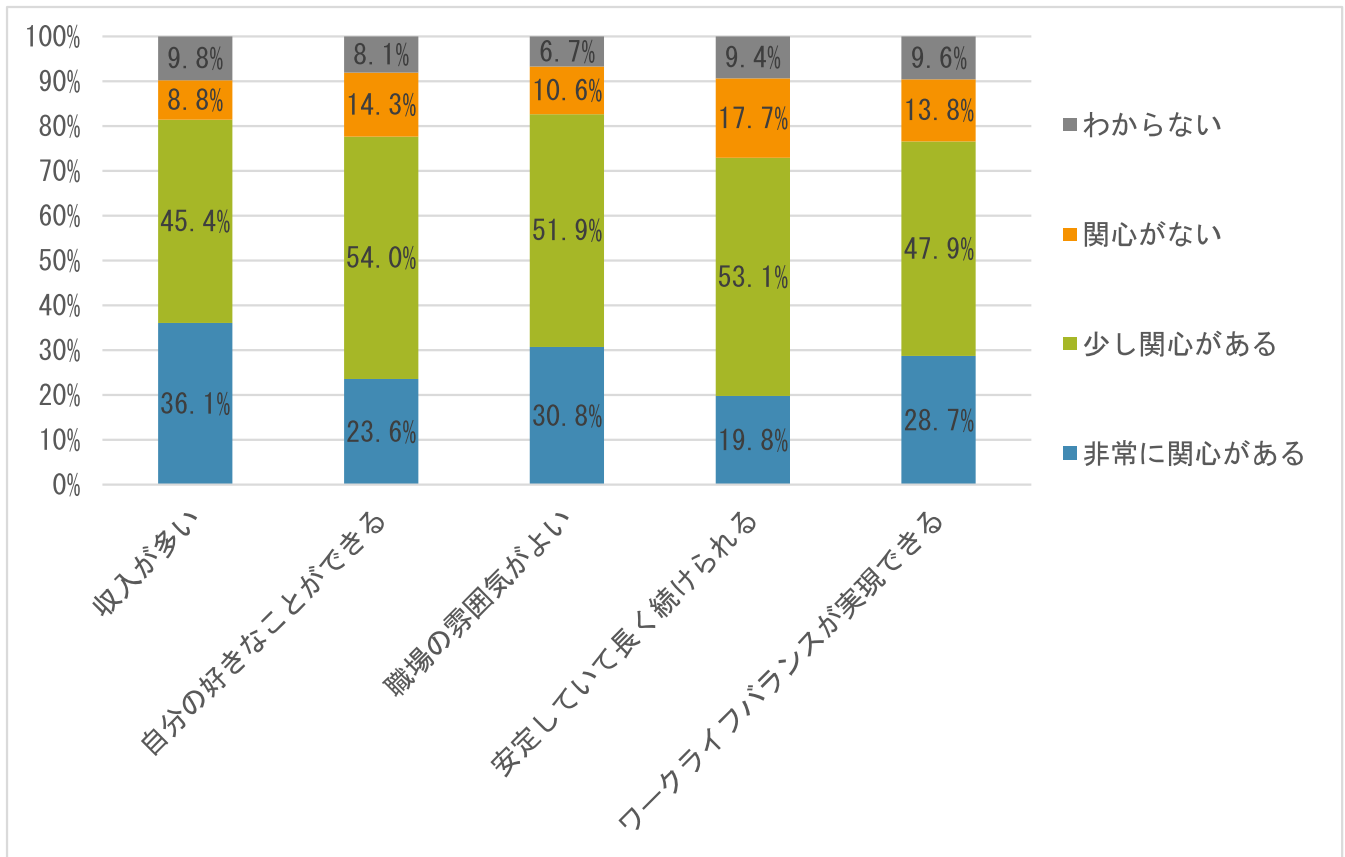
- 地方圏に住む大学生に「仕事を選ぶ上で重視することは何ですか」と聞いたところ（複数回答）、「収入が多い」(57.3%)、「職場の雰囲気がよい」(52.9%)、「自分の好きなことができる」(52.7%)、「安定していて長く続けられる」(49.8%)、「休みが多いなどワークライフバランスが実現できる」(44.0%)がこの順で多かった。



- 仕事を選ぶ上で重視することとして重視する順に順番をつけてもらい、1位のみをみたところ、「収入が多い」(25.4%)が最も多く、次いで、「自分の好きなことができる」(20.0%)、「職場の雰囲気がよい」(12.9%)、「安定していて長く続けられる」(11.9%)、「休みが多いなどワークライフバランスが実現できる」(11.7%)が続いた。

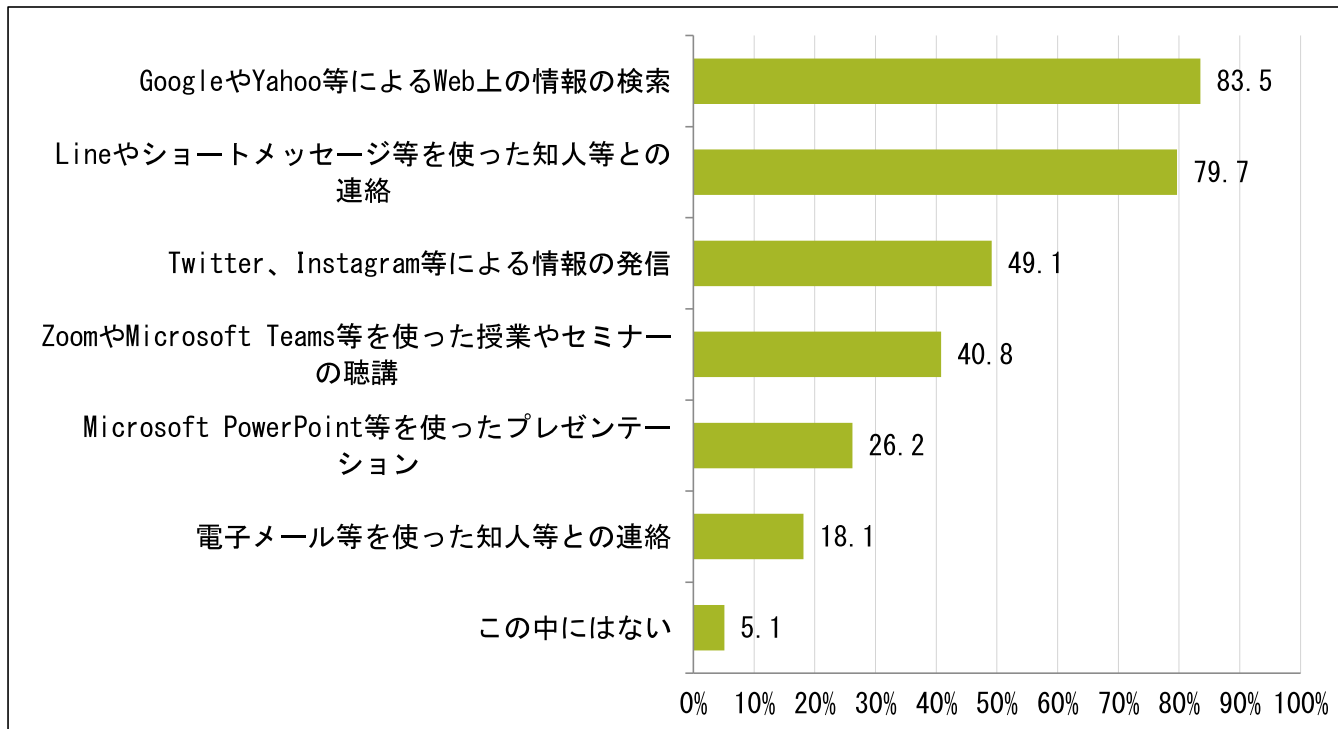


- 仕事を選ぶ上で重視することのうち1位に選んだ者が多かった5項目について、その項目を1位に選んだ者のグループごとに、「リモートワーク正社員」としての採用についての関心をみると、「リモートワーク正社員」としての採用に関心がある者の割合（「非常に関心がある」と「少し関心がある」を合わせた割合）は「職場の雰囲気が良い」ことを最重視するグループにおいて最も多く（82.7%）、「リモートワーク正社員」としての採用に「関心がない」者の割合は「安定していて長く続けられる」ことを最重視するグループにおいて最も多かった（17.7%）。



5. インターネットの活用等と「リモートワーク正社員」としての採用への関心

- 地方圏に住む大学生に、インターネットの活用等に関して「頻繁に行っていて慣れているもの」を聞いたところ(複数回答)、「Google や Yahoo 等による Web 上の情報の検索」が最も多く(83.5%)、次いで「Line やショートメッセージ等を使った知人等との連絡」(79.7%)、「Twitter、Instagram 等による情報の発信」(49.1%)、「Zoom や Microsoft Teams 等を使った授業やセミナーの聴講」(40.8%)、「Microsoft PowerPoint等を使ったプレゼンテーション」(26.2%)、「電子メール等を使った知人等との連絡」(18.1%)が続いた。



- 「頻繁に行っていて慣れている」インターネット活用等の項目の数と「リモートワーク正社員」としての採用についての関心の関係をみると、「頻繁に行っていて慣れている」項目の数が多ければ多いほど、「リモートワーク正社員」としての採用に「非常に関心がある」者の割合が多かった。

